

2022年10月20日

各位

興和株式会社

興和株式会社、東京大学稷門賞を受賞

興和株式会社は、国立大学法人 東京大学の研究活動等の発展に大きく貢献したと評価され、同大学より「東京大学稷門賞」を2022年9月27日付で受賞しました。

「東京大学稷門賞」は、ボランティア活動や寄附講座等により、同大学の活動の発展に大きく貢献した個人、法人または団体に対して、贈呈されるものです。

■受賞理由（東京大学ホームページより）

2003年から2022年まで20年にわたり、興和基金講座として「システム生物医学分野」「増殖生化学分野」「核内複合体分野」および「がん・代謝プロジェクト」の支援を目的に寄附を実施したこと。また、東京大学の法人化後、新制度として寄附基金による「教授ポスト」が創設され、「システム生物医学分野」を中心に発足したシステム生物医学ラボラトリーは、その後の研究・教育活動に大きな波及効果をうみ、「生命情報若手アライアンス」として、いまなお発展を続けている。また、コロナ感染症対応にもPCR・抗体の臨床研究の中心となっている。20年間という長年にわたる多大かつ広範な貢献が、東京大学のみならず社会の発展にも大きく貢献している点が評価された。



■東京大学稷門賞

東京大学は、2002年度からボランティア活動及び援助、寄附講座、寄附研究部門等により、本学の活動の発展に大きく貢献した個人、法人又は団体に対し、感謝の意を表すため「東京大学功績者顕彰制度」を設け、その功績に対し「東京大学稷門賞」を贈呈しています。なお「稷門」とは、中国の戦国時代の齊（現在の山東省）の首都の城門の名前です。齊の威王、宣王が学者を厚遇したので、齊の都に天下の賢者が集まり、学問が栄えたという故事をこの賞の名称は踏まえています。稷門付近は「稷下」と呼ばれ、多くの学者が集まったことから、「稷下の士」という言葉も生まれました。（出典『史記』）